

2023年10月18日

稲葉延雄会長 10月定例記者会見要旨

質疑応答

(記者)連続テレビ小説「ブギウギ」がスタートしたが、放送を見た感想や印象は。

(稲葉会長)

「ブギウギ」は戦後の大スター、笠置シヅ子さんをモデルにした、歌と踊りで日本中を明るくした女性の物語で、1日の始まりにふさわしい、元気になれる、大阪放送局が力を込めてお送りしている朝ドラです。第1週、第2週は幼少時代の話で、早速、大阪らしいにぎやかなドラマだという感想をいただいています。3週目からは趣里さんがいよいよ登場しているので、是非その熱演ぶりに注目していただければと思います。

(記者)「第74回紅白歌合戦」の司会として有吉弘行さん、橋本環奈さん、浜辺美波さん、高瀬耕造アナウンサーの4人が発表されたが、この4人への期待は。

(稲葉会長)

すばらしい皆さんにお集まりいただけたと思っています。それぞれ個性を存分に発揮していただいて、1年の締めくくりにふさわしい紅白にしていただけたらと期待しています。司会者が決まった時のニュースを高瀬アナウンサーが担当していて、たまたまそれを見ていたのですが、高瀬アナウンサーが自分のことを自分でお話するわけで、結構恥ずかしそうに照れくさそうに話していたのが印象に残っています。いずれにしても素晴らしいチームだと思いますので、紅白も楽しいものになるのではないかと考えています。

(記者)旧ジャニーズ事務所の問題に関して、10月2日に2度目の会見があり、社名の変更や新会社の設立などが発表されたが、受け止めは。

(稲葉会長)

今回の発表内容については、例えば新会社の独立性をどのように担保していくのかなど、詳細はまだ分からないことがあると感じています。したがって、旧ジャニーズ事務所とのやり取りを継続し、被害者への補償と再発防止に向けた取り組みが着実に実施されていくかどうかを確認していきたいと考えています。旧ジャニーズ事務所に所属するタレントの起用については、9月27日の記者会見で示したとおり、番組などへの出演の契約がすでに決まっているタレントさんはこれまでどおり継続しますが、新規の出演依頼は被害者への補償や再発防止への取り組みが着実に実施されていることが確認されるまで当面行わないという方針については変更がありません。

(記者)被害者への補償の推移を見て判断するということか。

(稲葉会長)

そうです。

(記者)NHK局内で性被害があったことについて、10月9日にNHK自身が報じた
が、この問題を受けて今後の検証や対応はどうするのか。ジャニーズ事務所は事実関
係を否定していると思うが、会長の所感は。

(稲葉会長)

放送センター内で深刻な性被害を受けたという男性の証言があったことは大変重く
受け止めています。番組の制作責任を持つNHKとして看過できない問題だと思っ
ていますし、今後、出演者の安全、あるいは人権を守る取り組みをさらに進めていき
たいと考えています。

(担当者)

取材・制作の詳しい過程についてはお答えをしていますが、このニュースについて
は、NHKの取材に基づいて報道しています。それから、ジャニーズ事務所から放送セ
ンター内で性被害があったという証言について、弊社が認識しているかぎりという
事実はございませんという内容のコメントを出されました。NHKとして事務所にその
趣旨を確認したところ、「事実かどうか確認できていない」という趣旨だと回答を得て
います。

(記者)今後、この問題について検証する予定はあるのか。

(稲葉会長)

今後もこういった事案が出てくるのかどうかも含めて、もしそういう事案があれば
適切にニュースで報道したり、あるいはいろいろな検証作業の中で新しい事実が出て
きたりすれば、番組の中でその内容をお知らせするという姿勢でやっていきたいと思
っています。

(担当者)

放送センター内で性被害があったことについては、「ザ少年倶楽部」の歴代の担当者
にも話を聞きましたが、性被害の事実を知っているという人間はいませんでした。

(記者)先ほど会長は、ジャニーズ事務所の会見を受けて、独立性の担保がされてい
るか不明点が多いと言っていたが、具体的には、新会社と補償会社でそれぞれ東山
さんが社長を務めていることを指しているのか。

(稲葉会長)

形式的なことではなく、実態として新会社と旧会社の間で経営の分離ができているか、そうしたことが確認できないとよくないということで、実質的な意味です。

(記者) 前回の会見では第三者委員会は作らないという話だったが、変化はないか。

(稲葉会長)

NHKは報道機関であって、報道を通じて真実を皆さまに提供するという責務があると思います。したがって、特に放送をめぐる問題が起きた場合には、報道機関として自主自律を堅持する立場から、みずから原因や背景を解明して再発防止を行うということが必要で、そうだとすると、自主自律の観点からは、例えば第三者委員会を設置してという調査ではなく、自分自身がしっかりと原因・背景を解明し、それをニュースや「クローズアップ現代」といった番組で取り上げていくことで適切に報道していきたいと考えています。

(記者) 歴代の「ザ少年倶楽部」の担当者に聞いたということだが、さらに調べるのか。

(稲葉会長)

これまでも報道機関として、真実をどうやって究明していくかというのは、みずから課した責務としてやってきていますので、そういったノウハウを最大限活用して、この問題についても真実を探っていきたいと思います。それができなければ、報道機関としての役目を果たしたことになると思っています。

(記者) 検証番組の第2弾の放送は考えているか。

(稲葉会長)

いち早く「クローズアップ現代」で問題を取り上げて、NHKとしての姿勢を示したつもりです。ただ、これで全て作業をやり尽くしたと思っているわけではないので、これからのいろいろな検証作業や内部での調査などを進めながら、報道すべきものがあれば改めて番組でお知らせします。

(記者) 次の番組ではさらに踏み込むことができるということか。

(稲葉会長)

会長から現場に対して指示をするつもりはありませんが、多分さまざまなことを考えてやっているだろうと思っています。

(記者)元理事がジャニーズ事務所の顧問になった件に関して、現役時代にハワイ出張と一緒に行ったのではないかという話についてはどうか。

(担当者)

2014年にジャニーズ事務所の所属のタレントがハワイでコンサートを行った際に番組の取材に同行し、ご指摘の元理事も出張しました。これは事前に内部の審査手続きを経て承認されたものです。旅費や宿泊料金はNHKで負担をしています。

(記者)適切な出張だったのか。

(担当者)

今申し上げたように、事前の内部審査を行い、出張として認められて行っています。

(記者)元理事だけが行ったのか。

(担当者)

番組制作で行っていますので、元理事のほかにも当然、番組の制作担当者らを含めて行っています。

(記者)その1回だけか。

(担当者)

今把握しているのは、この2014年のハワイの番組取材に伴った出張ということですので。

(記者)元理事に対して、話を聞くことはできているのか。

(担当者)

こちらのほうで直接、元理事に話を聞くことはしていません。

(記者)事実関係を調べる上で話を聞く必要はあるのではないか。

(担当者)

必要があれば、当然そういうことはあるとは思いますが、先ほど申し上げたように、ご指摘があったハワイへの出張は正式に局内の手続きを経ているものですので、そのことについて何か聞くという段階ではないと思っています。

(記者)2014年は元理事が制作局制作主幹という立場だったようだが、そういう人も番組制作のために出張に行くことがあるのか。

(担当者)

ケースバイケースですが、そういうことはあります。事前に承認の手続きをして認められて出張しているということです。

(井上副会長)

内部の出張審査では、当然出張の目的などをきちんと精査して承認していますので、認められたということは目的に合う出張であったと受け止めています。

(記者)ハワイには何人で行ったのか。

(担当者)

取材・制作の過程にかかわることなので、何人かは申し上げられません。

(記者)ジャニーズ事務所所有のビルにNHKが入居しているという報道は事実か。

(担当者)

個別の契約にあたることはお答えしていません。

(記者)ジャニーズ事務所とNHKの関係性という意味では重要だと思うが、会長の見解は。

(稲葉会長)

この問題について、私はちょっと違う観点から考えています。こういう人権上の問題、人道上の問題、もっとはっきり言えば性加害を起こしたような会社とどのように付き合い合っていくのがいいのかという問題だと認識しています。この問題について、日本取締役協会が先日、緊急提言を発表されて、こういう性被害を起こした企業との関係について一般企業はどう考えるべきかという提言をまとめました。私はその内容が適切だと思っていて、こういった企業との間の取引関係というのはNHKも今後よく考えていかなければいけないと思います。

(記者)賃貸関係だけでなく、番組出演も含めて考えていくということか。

(稲葉会長)

タレントと契約する問題と同じように、賃貸契約や著作権の問題、販売の問題など、そういう取引についてどう考えるのかということも改めて考えたいと思います。

(記者)ジャニーズ事務所のタレントの新規起用は当面しないという方針だが、「第74回紅白歌合戦」も今のところ起用はゼロ組ということですか。

(担当者)

先ほど申し上げたように、旧ジャニーズ事務所の所属タレントについては、被害者の救済と再発防止が着実に進むまでは新規の出演依頼は当面行わないとしていますので、「紅白歌合戦」についても同じ方針です。

(記者)会長としてどの辺りからこの問題にきちんと取り組むべきと思ったのか。

(稲葉会長)

いつからかというのは明確ではありませんが、大変な問題だと思いましたので、覚悟を決めて対応しないといけないと思います。

(記者)ジャニーズ事務所という社名が変更になった点はどう評価しているか。

(稲葉会長)

再三言っていますように、再発防止や補償がきちんとできるかということが大きな問題で、社名変更はあまり本質的なことではないと思っています。新会社と旧会社の関係で言えば、実態的に経営がきちんと分離されているかどうか、実質的に分離されているという心証が得られるかどうかが大変なことだと思っています。

(記者)年末に紅白もある中で、判断の期限はあるのか。

(稲葉会長)

多数の方々が被害に遭っている大変重大な事案ですので、番組制作のスケジュールに合わせてどうこうする問題ではないと思っています。補償とか再発防止への取り組みがきちんとできているかどうか、それを確認しない限りは、新しくタレントと契約をするということは難しいと思っています。

(記者)エージェンツ会社ができて、旧ジャニーズ事務所の所属ではない形態になる可能性があるが、それは1つの判断材料になるか。

(稲葉会長)

それは先ほどから申し上げているとおり、そういう形式的なことだけではなく、実際に新会社と旧会社の間で分離できているかという実態的な状況ができたという心証が得られるまでは、形式的なことだけでは判断できないと申し上げています。

(記者)「ザ少年倶楽部」の公開収録が中止されたが、今後の番組の見直しは。

(稲葉会長)

「ザ少年倶楽部」は番組の内容やタイトルの変更を含めて、抜本的な見直しを検討している最中ですが、10月16日までに十分な見直しに至らないと判断したため、公開収録を中止しました。直前のお知らせになり大変申し訳なく思っています。楽しみにされていたお客さまには、本当にお詫びをしたいと思います。

(記者)10月9日のニュースでNHK局内での被害者の証言を報道したことについて、ジャニーズ事務所が、被害者でない可能性の高い人が虚偽の話をしているケースが複数あるというコメントを出したが、受け止めは。

(担当者)

こちらからジャニーズ事務所に確認をして、「事実かどうかを確認できていない」という趣旨だと回答を得ていますので、われわれとしてはそれが全てだと考えています。

(記者)業界の中でセクハラが一般化しているのではないか。ジャニーズ事務所だけでなく、全体的な芸能事務所との付き合いについて、どのように考えているか。

(稲葉会長)

例えばタレントと契約するとき、ジャニーズ事務所だけでなく、ほかの事務所についてもタレントの才能とかを判断するだけではなくて、所属する事務所において人道的な取り組みがきちんとなされているかということも考慮に入れて契約するという事です。もっと広く一般企業組織として、そういった組織や企業とどうお付き合いするかということも、NHKは率先して考えていかなければいけないと思っています。先ほども言ったように、日本取締役協会でも緊急提言を出され、非常に意味ある提言だと思っていますので、そういうものを参考にしながら、われわれのお付き合いの仕方を考えていこうと思っています。

(記者)中期経営計画に関連して、子会社からの特別配当は子会社の剰余金や内部留保も原資とすることが可能なのか。

(稲葉会長)

可能です。その時々で配当で出している残りの部分があるので、それがあつたままってきたものについては、再度NHK本体に配当として出してもらうということです。

(記者)動画配信事業者などの外部企業と共同で番組を制作することについては、NHK本体と子会社のどちらが行うのか。

(根本理事)

基本的には子会社の対応を念頭に置いた考え方だをご理解ください。

(記者)報道局職員の不正な経費請求の件について、調査対象は怎么样了のか。

(担当者)

第三者委員会を設置して、その指導や助言を受けながら調査を進めていきますので、範囲や期間についても助言を受けながら進めていく予定です。

(記者)まだ第三者委員会は設置されていないということか。

(担当者)

第三者委員会につきましては現在詰めているところです。なるべく早くお伝えできればと考えています。

(記者)懲戒免職などの処分の線引きはどうなっているのか。

(担当者)

詳しい線引きまでお答えできるような段階にありません。

(記者)どのような場合が懲戒処分の対象になるのか。

(稲葉会長)

この辺のところは予備的な調査を今やっているわけですが、第三者委員会を立ち上げて、正式にきちんと調査をするという手順になっています。その結果、この事案の悪質性などを踏まえて第三者委員会の方々にも判断していただくと思っています。それに見合っ、どのような処分をするのかという議論をしていただきたいと思います。

(記者)不正請求の件で、調査のスケジュールはどうなっているのか。

(担当者)

時期も含めて第三者委員会に助言や指導を受けながら進めていきますので、その中で決まっていくこととなります。特段いつまでという目途を決めてやっているものではありません。

(記者)稟議問題では、自民党の部会で役員の処分規定を作ってはどうかという提案があったと記憶しているが、役員の処分規定を作ることを検討しているか。

(稲葉会長)

そういうご発言があったのは事実です。そういう場でなくても、役員の規定は必要ではないかという議論はあるのですが、特に現時点で差し迫ってそれがないと良くないということではないので、継続的に検討している状況です。

(記者)ジャニーズの件は報道で向き合っていくということだったが、不正請求の件で第三者委員会を設置するに至ったポイント、分岐点は何か。

(稲葉会長)

これは私の信念みたいなものですが、今回のジャニーズの問題は報道が浅くて、事態を結果的に放置したというようなことですので、これについては放送人として自らが調べて基本的な原因なり背景なりをちゃんと追及し、どうしたら再発防止できるかというところまで、自分たち自身で掘り下げてやっていくことが大事ではないかと思っています。今回の不正経理の問題は、第三者の目を見て、経理が公正に行われていたかどうかをチェックしてもらう。そうすれば外部の人にとっても分かりやすいのではないか。これは一種、私の信念に近いことです。放送のことについては、放送人として自ら解明したいと思っています。

(記者)第三者委員会だから徹底的に調べられるとか、自分たちが調べるから手心が加わるとか、そういうことではないということか。

(稲葉会長)

そういうことではありません。むしろ、自分たちでしっかり追及してみたいということです。

(記者)ジャニーズの件は局内の調査だからといって甘くなることはないということか。

(稲葉会長)

そうならないように頑張りたいということです。結果的にわれわれに落ち度があったという結論になるのかならないのか分からないが、やってみたい。

(記者)芸能界とNHKの関わりについて、外部から来た目で見te感じることはあるか。

(稲葉会長)

あまり変わらないです。どこの組織でも関連の深い業界があって、そこのお付き合いをどうするかというのはすごく重要な問題です。時々そこを失敗したり、そのところのルールを改めて考えたりということの繰り返しですが、NHKにとってみると、その関連業界というのはまさにジャニーズみたいな事務所であったりするわけで、そこのお付き合いの仕方というのは非常に神経を使わなければいけないところだという感じはします。

(記者)会長就任以来、NHKの風土についてもたびたび言及があるが、今回のジャニーズの問題で風土による弊害を感じているか。

(稲葉会長)

特に男性の性被害についはわれわれの感度が非常に低かったという問題も背景にあると思いますが、この両者の関係についてしっかり考えるということをめかったという感じはあります。

(記者)総務省の有識者会議の取りまとめ案について、「二元体制を維持する」という文言が「メディアの多元性を維持する」と修正されたことは、どう考えているか。

(稲葉会長)

この情報空間の中でさまざまなメディアが一緒になって情報を提供する仕組みを維持する、そういう多元性の構築、維持がそこに盛られていると思っています。そこに対してはきちんと貢献していきたいと考えています。

(稲葉会長)

最後に1つお知らせがあります。来年4月から「プロジェクトX 挑戦者たち」が18年ぶりに復活することになりました。「プロジェクトX」は2000年から5年にわたって放送しましたが、今回「新プロジェクトX」として新作を制作します。私は当時日銀に在籍してまして、番組をよく見ておりました。旧シリーズでは主に戦後復興、高度成長の時代に焦点をあてていたと思いますが、大変興味深く毎回見ていたことを記憶しています。今回のシリーズは、平成・令和の時代に注目し、バブル崩壊後の日本で勇気を与えた無名の人たちの物語をお伝えしていきます。私としてはバブル崩壊後、この2、30年、特に経済評論家などを中心に、失われた20年とか失われた30年と言われています。しかしその間私は民間にも出ていたのですが、実は、失われたということでは消されてしまうような歴史ではなくて、さまざまな方々が産業界を中心にバブル崩壊後の再生や、さまざまな災害に打ち勝って豊かな生活を構築することに相当頑張っておられたし、勇気を与えるような行動をしてきた、そういう方々も多くいらっしゃったことを知っておりますので、そういったことをこの番組でお伝えできるといいなと思います。この話を聞いた時は大変うれしく思いましたし、どうぞ皆さんも期待していただきたいと思います。

(記者)会長の肝いりで復活させることになったのか。

(稲葉会長)

私の方から申し上げたことは一度もありません。ただ、失われた何十年とかいうのは本当に残念な話だねというようなことは終始言っていましたが。日頃皆さんと話している中で考えてくれたのかなと思い、それに嬉しくなっているということです。

(以上)